

ひので映画大使最新版

第22回映画大使「日輪の遺産」

期 日 平成23年8月27日(土)
 場 所 ワーナー・マイカル・シネマズ日の出

【ストーリー紹介】

1945年8月、敗戦前夜に下された密命
 「マッカーサーの財宝200兆円を隠匿せよ」

重大任務を帯びた3人の軍人と、勤労働員された20人の少女達。財宝とは知らずに、けなげに従事するが、やがて上層部から非情きわまる命令が下される。

3人と少女達を引率する教師が取った行動とは？
 そして少女達の運命は？



(C)2011 「日輪の遺産」製作委員会

映画大使の「感動と感想」をお伝えします。



今回はご覧の皆さんに参加していただきました。

～映画を見た感想や感動を、ストーリーは伏せて「みなさん」に紹介するコーナーです～

▶ 映画大使の「第一声！」

☆戦争とはいかに悲惨なものか、改めて実感した

☆少女達の想いと覚悟が深く胸に響いた

☆豪華キャストでスケールの大きな作品！

▶ 映画大使の「映画のツボ！」

Aさん

「作品を観て、命の大切さと、受け継がれていく命の重さというものを改めて感じました。`命を繋ぐ`という意味では私自身にもきちんと役割があるのだという事も実感しました。」

Bさん

「今の日本はこういう戦争の時代を乗り越えて復興した歴史があり、その時代に生きた人達の思いは必ず受け継がれていると思います。今の日本の状況と重ね合わせた時、その気持ちをしっかり持っていれば大丈夫だと思いました。」

Cさん

「結末は衝撃的でしたが、この少女にずっとつきまとった運命の重さを考えると、同じ位の衝撃を受けました。辛かったと思います。」

Dさん

「少女達の覚悟に対して“なぜ？”という思いがありました。ああなる事を承知で、でも任務として遂行した事に最後まで疑問が残りました。軍人ではない少女達にとってはあまりにも重かったと思います。戦争を体験した私の父も、後になって戦争の話をしてくれました。戦争の体験というのは、心の中に深く刻まれ、喋りたくないとか、喋れないとか、口にはあまり出せないのでしょうね。それほど重いものだったのでしょう。何十年もして、この少女がその重い荷物を少しでも降ろせたのは良かったと思うし、必死だったからこそ少女達の覚悟も、結果的には皆にも伝わったのでしょう。」

Eさん

「映画というエンターテイメントとしては、面白い映画だと思いました。私は原作を読んでいませんが、配役も作り方も良かったと思います。」

Fさん

「浅田次郎原作なので、ミステリアスな内容だと思っていましたが、人間ドラマの方が強く描かれていましたね。12歳の少女達の言葉ひとつひとつにも重みがあって、“自分が苦しい状況なら、アメリカも同じではないのか”など思いやりの気持ちも言葉の節々に感じられました。戦争という歴史は語り継がなければいけないと改めて思いました。」

Gさん

「人間はどんな状況においても、心とか思想というのだけは唯一自由にできるものだと思うんですよ。でも戦争の時代は戦争が無くなって欲しいとは言えない。そういう想いを押し殺して生きて、それを伝えられるようになるまでには時間がかかったし、この映画の少女もみんなの想いを背負って生きてきたのは重みがあるし、時代によって悩みとか違いますが、何かを背負って生きていくというのは、辛い事だと思います。ミステリーと戦争は結びつくのかと思いましたが、入っていきやすい作品でした。震災の津波の爪痕を残すかどうかという話があるようですが、私は残して伝えるべきだと思います。」

📌 作品の内容（印象に残ったシーンなど）

- ・生き証人がいて現代に伝えられた点では、忠臣蔵に共通しますよね。
- ・上映時間の長さ(134分)を感じさせなかった。
- ・戦争の時代がきちんと描かれていたし、それにフィクションが上手く組み込まれていましたね。
- ・どの世代でも観られる作品ですね。
- ・「ひめゆりの塔」を思い出させる作品でした。
- ・戦争というのは何か大きな力が働いて国や国民を動かしてしまう。人を麻痺させてしまう。絶対繰り返してはいけない と思います。
- ・上からの命令が絶対の時代に、自分の意思を貫こうとした主人公達の姿に心打たれました。

📌 まとめ

この作品は、戦争映画としての質が高く、物語的にも良かったですが、改めて思う事は、戦争という行為の愚かさ、悲惨さ、またそれを語り継ぐ事の大切さです。こういう時代があったのは厳然たる事実ですし、そこで懸命に生きていた、生きようとした人がいます。

軍人は、「お国のためなら喜んで」死んでいきましたが、本当にそう思って死んだ軍人もほんの一部だった筈です。今の日本があるのは、戦争で死んでいった人達の無念の想いと、必死で復興にあたった人達の願いがあったからこそです。

今年は、大きな震災がありました。多くの方が犠牲になり、今も懸命の復興作業が行われています。戦争とはもちろん事柄は違いますが、想いと願いがあれば必ず復興は叶うはずですよ。

いま、この時期に多くの人に観て欲しい作品だと感じました。

➡ 関連ページ: [ひので映画大使のトップに戻る](#)

問合わせ先: 教育委員会文化スポーツ課社会教育係
電話042-597-0511(内線544)

[◀ 前のページへ戻る](#) | [ページトップへ](#) ▶

〒190-0192 東京都西多摩郡日の出町平井2780番地 電話 042-597-0511(代表)
Copyright © 2011 Hinode Town All Rights Reserved.

[サイトマップ](#) | [このサイトについて](#)